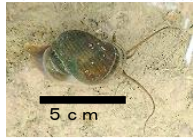


# 北栄町 ジャンボタニシ対策一覧表（暫定版）

令和8年度4月現在 北栄町ジャンボタニシ防除対策協議会

## ○ジャンボタニシの特徴



- ・触角が長い
- ・動きが早い
- 素手で触らない！



- ・卵塊はピンク色
- ・神経毒がある
- 素手で触らない！



- ・田植直後から活動しすぐに苗を食べつくす
- 地域一体となって対策し我々の水田を守りましょう！

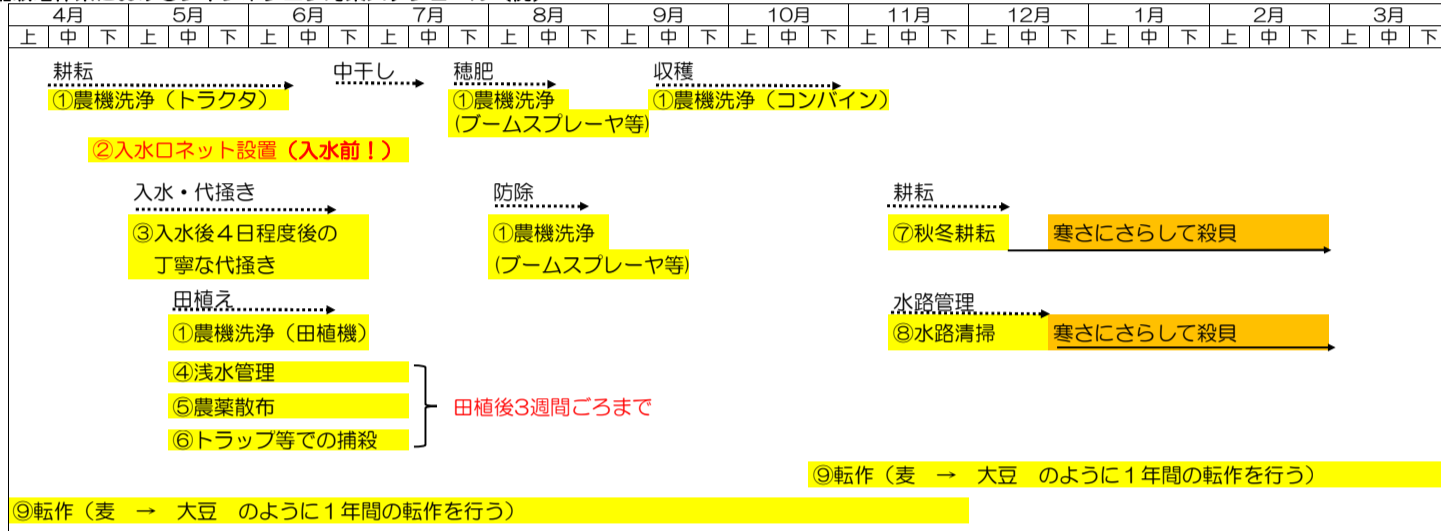
在来タニシとの違い



## ○地域ごとに必要な対策があります。できる対策から取り組みましょう！

地域	発生状況・対策の考え方	必要な対策（◎：必須、○努力目標）								
		①農機洗浄（泥を落とす）	②入水口ネット設置	③入水4日程度後の丁寧な代掻き	④浅水管理（水深4cm以下）	⑤農薬散布	⑥トラップ等による捕殺	⑦秋冬耕耘	⑧水路清掃（泥上げ）	⑨転作
ア 常発地域	・横良川周辺など、数年に渡りジャンボタニシが見つかった地域 ・これまで大規模な被害が発生した地域 → <b>被害発生を防止する</b> 他地域や未発生田へ広がらないようにする	◎		○	◎	◎	○	◎	○	○
イ 発生直後の地域	・R7年にジャンボタニシが見つかった地域 ・R7年以前に発見されたが被害程度は小規模であった地域 → <b>ジャンボタニシの撲滅を目指す</b> 他地域や未発生田へ広がらないようにする	◎	○		◎	○	◎	○	○	○
ウ 未発生地域	・これまでジャンボタニシが見つかっていない または被害が無かったが、近接地でジャンボタニシが発見されている地域 → <b>水路や農機から水田へジャンボタニシが入ってこないようにする</b>	◎								

## ○移植水稲栽培体系におけるジャンボタニシ対策スケジュール（例）



## ○対策内容について

### ①農機洗浄（足回りの泥を落とす）

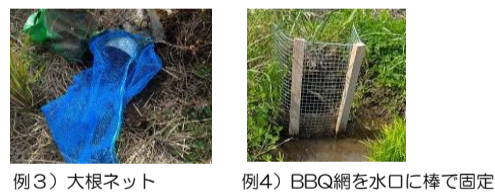
- ・発生地で作業したトラクター、田植機、コンバイン等のタイヤやロータリー爪等にジャンボタニシを含む泥が付き、それがジャンボタニシ未発生地区に持ち込まれることで発生地域が拡大する。
- 未発生地区に持ち込まないよう、農機の洗浄を徹底して行いましょう。



### ②入水口ネット設置

- ・水路には水田よりも大きな貝があるので、入ってこないようにする
- ・ゴミの詰まりが大変なので約9mm目合いの網を張る
- ・春の入水～田植後3週間だけでいいので、大きな貝が入らないようにする

設置例（ホームセンターで入手できる資材を活用）



### ③丁寧な代掻き（入水して4日程度してからゆっくりに代掻き作業）

- ・水温15℃以上・3～4日の湛水条件下でジャンボタニシは休眠から覚め活動する。
- 目を覚まさせて土中に出てきてから、丁寧にゆっくりに代掻きをして物理的に砕く。

### ④浅水管理（水深4cm以下）

- ・深水になるとジャンボタニシは活発に苗を食害する
- ・田植後約3週間（水稲5葉期ごろ）まで、水深4cmまでとする
- ほ場均平が重要！** レーザーレベル施工、浅水代掻きで、ほ場均平化に努める
- ・溝切りをしておき、食害されそうになったら落水する現地事例もある。
- ・急な大雨で深水になると大きく食害されるので、落水しやすいよう落水口を管理しておく。
- ・暖冬後の水稲作で貝が多い水田では、水稲初期除草剤は使用せずに移植後から浅水管理の実施を優先し、中期除草剤から除草対策を行うことも有効である。



### ⑤農薬散布

- ・効果が確認された農薬は「スクミノン」「ジャンボタニシくん」など
- ・トラップ等を代掻き後に仕掛け、ジャンボタニシが動き出したことを確認してから散布する
- ・田植後に水の濁りが無くなってから散布するとより効果的
- ・湛水状態（水深4cm程度）で散布し、散布後7日間は落水やかけ流し・排水はしない
- ・使用量は農薬の規定以内で行う。
- （例：スクミノン：10aあたり1～4kgを散布、収穫60日前まで）
- ・用水路には絶対に散布しない
- ・ジャンボタニシは水口周辺、畔際、深水になる箇所へ集まる
- 集まる場所に集中的に散布するとより効果的である**
- ・散布方法として、手播き、動力散布機（1キロ粒剤散布可能なもの）があります。
- スクミノンは、田植え同時散布可能な専用散布機（丸山製作所 MJT-8）があります。

### ⑥トラップ・網でのすくい上げ等による捕殺

- ・深水になる水口や畔際などに、浅水管理できないところに仕掛ける
- ・トラップが水に浸るくらいの高さを掘ってから設置すると集まりやすい
- ・餌（米ぬか、ぬか床、苺、野菜くず等）をすくいに食べつくすので、毎日管理する

トラップの例



\*捕獲した貝の処分方法

- 1) アスファルトなどで踏みつぶして殺す（放置せず清掃すること）
- 2) よく水切りして、可燃ごみとして「ほうきりサイクルセンター」へ持ち込む

### ⑦秋冬耕耘

- ・地中の貝を地表面近くに出し、1～2月の寒さで殺菌 + 大きな貝を砕く
- ・貝は地下6cm程度までいるので、**地表5～10cm（浅めに）を耕す。**
- ・トラクターの進行速度は遅め、ロータリー回転数は高速回転で行う。
- ・**やらないよりはやった方が絶対に良い！**
- ・乾田にして土が固まっている時が効果的。土塊が崩れるときに小さい貝もつぶれる。
- 湿田や土が軟らかいところは、③～⑥を中心に対策を行う**



### ⑧水路清掃（泥上げ）

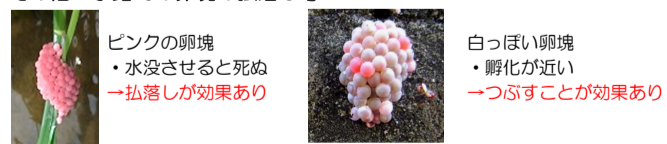
- ・泥上げの効果は以下のとおり。
- ①寒さで殺菌
- ②越冬場所をなくす
- ③雑草除去が翌年の餌をなくす
- 自分や隣人の田んぼに入れないため、地域一帯で行いましょう！**



### ⑨転作

- ・1年間の転作（R7年水稲→R8年産大麦→R8年産大豆など）を行うこと
- ・ジャンボタニシの寿命は2年であるので、2回目の冬は越冬できない。
- ・ジャンボタニシは秋に落水すると口蓋を閉じて次年度の入水を待つ。水が入ると貝が呼吸できるが、無いと呼吸できず死ぬ。
- 転作期間に貝を水に浸して呼吸させないこと。（転作の排水対策を徹底的に！）**

### ○その他：水路での卵塊の拡散し等



- ・可能であれば3～5日おきに行う（好条件では2～3日おきに産卵し、産卵後25℃、約2週間で孵化する）

### ○その他2：越冬した貝の生死判断の方法

